

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ベストアメニティ玉名物流倉庫	階数	地上1階
建設地	熊本県玉名市坊明町開田字京塚381-1、那木野329-1、313-2、榎田304-6	構造	S造
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	5人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	倉庫	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年12月25日
敷地面積	81,378 m ²	作成者	桑代
建築面積	2,549 m ²	確認日	2026年1月8日
延床面積	2,538 m ²	確認者	桑代

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

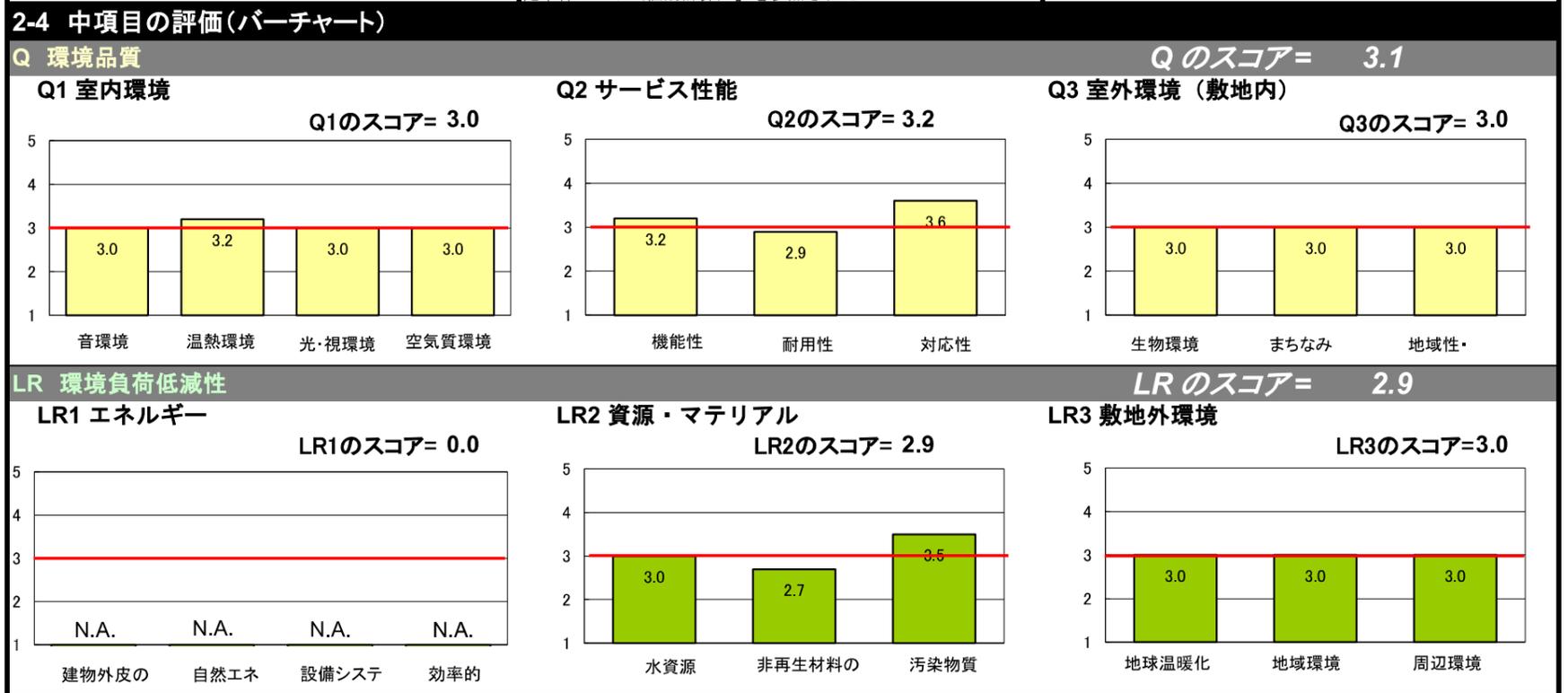
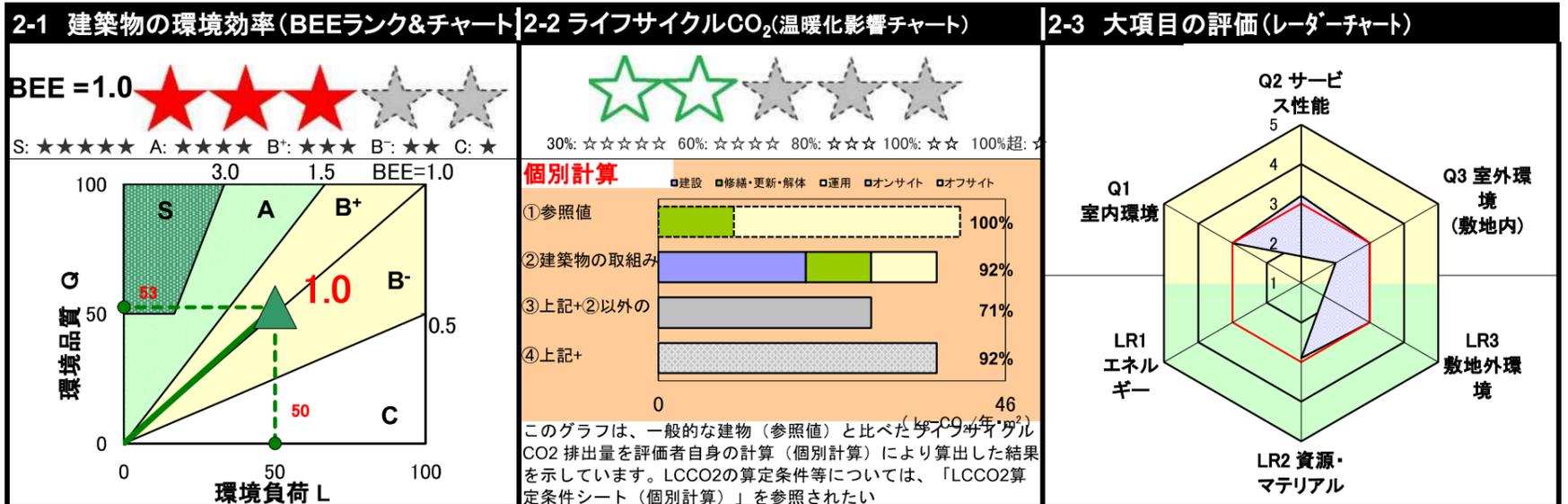
排出率

92%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
		79												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.5	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	75.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.0													

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	ベストアメニティ玉名物流倉庫	階数	地上1階		
建設地	熊本県玉名市岱明町開田字京塚381-1、那木野329-1、313-2、榎田304-6	構造	S造		
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	5人		
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)		
建物用途	倉庫	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年12月25日		
敷地面積	81,378 m ²	作成者	桑代		
建築面積	2,549 m ²	確認日	2026年1月8日		
延床面積	2,538 m ²	確認者	桑代		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.30		-	3.0
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	1.00	-	-	
1.2 遮音						-	-	-	-	
1 開口部遮音性能						-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	-	
1.3 吸音						-	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御						3.5	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能		各倉庫別に室温制御				-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						4.0	0.50	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用						-	-	-	-	
1 昼光率						-	-	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						-	-	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.38	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.63	-	-	
4 空気質環境						3.0	0.25	-	-	3.0
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能						-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		倉庫内喫煙禁止				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.50	-	-	
1 広さ感・景観						-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.50	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		②床材は塗床材を仕様、③水に強い塗床材を使用、④床材は異なる床材は接近させない。全て塗床材とする。⑦外壁は耐候浸水に優れた金属サイディングを使用。⑧腰壁コンクリートとサイディングは水切り使用。 ⑩屋外露出鉄骨は亜鉛メッキ。				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	1.00	-	-	
2 免震・制震・制振性能						-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐久性のある断熱パネルを使用				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	十分な階高さ天井内4000	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] =	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	節水		-	-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	断熱パネルを使用して容易に分別可能になっている。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.20	-	-	3.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を使用	4.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	消火剤 第1リン酸アンモニウム	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、自転車置場確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 ベストアアメニティ玉名物流倉庫

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		79
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.00			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.50			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.50			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.50			
LR2-1.1	節水	0.0	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.50			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

ベストアメニティ玉名物流倉庫

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作: 改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

	<p style="text-align: center;">計画上の配慮事項 ※必ず、何らかのコメントを記入してください。</p>
<p style="text-align: center;">総合</p>	<p>・法規制や建築主が求める条件をクリアすることを前提に計画を進め、使いやすい環境に配慮した倉庫とした。前回完成した工場と融合を図り搬入から出荷までに至る動線をゆとりある空間として計画した。Q1についても考慮した。</p>
<p style="text-align: center;">Q1 室内環境</p>	<p>倉庫内製品毎に温度管理を行った。</p>
<p style="text-align: center;">Q2 サービス性能</p>	<p>清潔な空間、清掃が容易な建築仕上げ材料を選定した。</p>
<p style="text-align: center;">Q3 室外環境 (敷地内)</p>	<p>敷地内緑地、太陽光パネルを配置した計画とした。</p>
<p style="text-align: center;">LR1 エネルギー</p>	<p>省エネ対象外のため全項目対象外</p>
<p style="text-align: center;">LR2 資源・マテリアル</p>	<p>前室、冷凍庫内装材断熱パネルは、分別解体容易である材料を採用した。</p>
<p style="text-align: center;">LR3 敷地外環境</p>	<p>建物は、敷地中央に配置し騒音、日照、光害に影響のないようにに配慮した。</p>
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>※ほか、敷地内の他の建築物との関係性(例: 既存の〇〇棟とは完全に別棟扱い)や各種諸元、CASBEE評価に際して『仮想敷地』を設定している場合の面積(例: 仮想敷地として・・・㎡)など、明記しておきたい情報があれば、必要に応じてこの欄を活用してください。</p>